

## 平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 清原 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

#### 4 本校の実施状況

|      |    |      |    |      |    |      |
|------|----|------|----|------|----|------|
| 第2学年 | 国語 | 203人 | 社会 | 203人 | 数学 | 203人 |
|      | 理科 | 203人 | 英語 | 203人 |    |      |

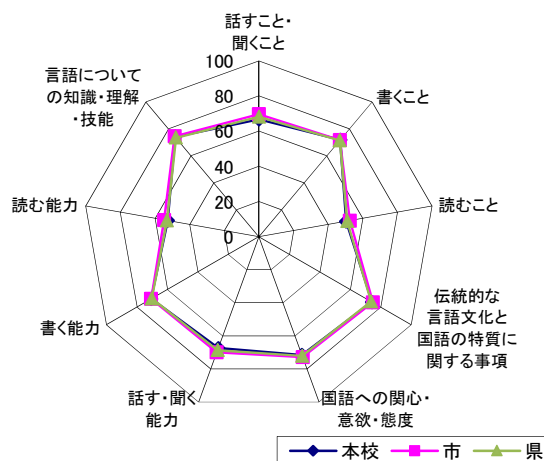
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることを留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 66.7 | 69.6 | 68.2 |
|     | 書くこと                 | 71.9 | 71.7 | 71.5 |
|     | 読むこと                 | 50.3 | 52.6 | 51.0 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 74.3 | 74.8 | 73.7 |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         | 71.5 | 72.8 | 72.1 |
|     | 話す・聞く能力              | 67.4 | 69.9 | 68.7 |
|     | 書く能力                 | 70.7 | 70.7 | 70.3 |
|     | 読む能力                 | 52.7 | 54.7 | 53.1 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 74.2 | 74.5 | 73.5 |



## ★指導の工夫と改善

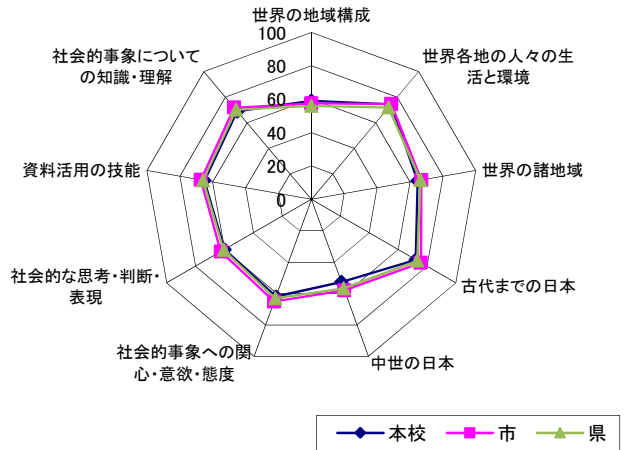
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分                | 本年度の状況   | 今後の指導の重点   |
|----------------------|--|--|
| 話すこと・聞くこと            | <p>○話し合いの基本的な態度が備わっていて、ペアワークやグループ学習でも自然と話し合いをすることができる。</p> <p>○授業中の聞く態度が、おおむねよくできている。</p> <p>●平均正答率が県平均よりも1.5ポイント、市平均よりも2.9ポイント低い。根拠を明確にして話をすることを苦手としている傾向にある。</p> | <p>・話し合い活動の中で、考えに至った根拠を明確にして話すことを徹底し、相手が納得する、説得力のある話し方を養う学習を多く取り入れていく。</p>       |
| 書くこと                 | <p>○ある程度量のある意見文や感想文を書くことができる。</p> <p>●平均正答率が県平均とは同率、市平均に比べると4ポイント低い結果となった。文章を書くこと自体は抵抗がないが、題意をくみ取り、構成がしっかりと整った文章を書くことを苦手としている生徒が多い。</p>                            | <p>・はじめ、なか、終わりといった文章の構成の種類を学習する。また、読み手に文意が伝わりやすい、効果的な文章に触れ、書き方を、実践して学ぶ場面を作る。</p> |
| 読むこと                 | <p>○登場人物の心情を読み取る問題に関しては、深い考えを持つことができる生徒が多い。平均正答率も、県平均よりも0.3ポイント上回っている。</p> <p>●平均正答率が市の平均と比較すると2.3ポイント下回っている。設問をじっくりと読まないことから、題意をとらえきれず、誤った答えになってしまう生徒が多い。</p>     | <p>・設問をよく読み、時間をかけて解答する機会を授業で多く取り入れ、実際の試験での解答のポイントを含めて指導する。</p>                   |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | <p>○平均正答率が、県平均よりも0.6ポイント上回っている。漢字の学習では、豆テストのために何度も練習をする習慣が付いている。</p> <p>●平均正答率が市の平均値よりも0.5ポイント低い結果となっている。文法事項に対して苦手になっている生徒が多い。</p>                                | <p>・定期テストで、これまでの文法事項を復習する内容の問題を出題し、これまでの学習の内容を復習することを促す工夫をする。</p>                |
|                      |  |  |

# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分              | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 世界の地域構成         | 59.1 | 57.6 | 56.0 |
|     | 世界各地の人々の生活と環境   | 74.4 | 74.6 | 71.9 |
|     | 世界の諸地域          | 64.6 | 67.0 | 66.3 |
|     | 古代までの日本         | 72.2 | 75.7 | 73.3 |
|     | 中世の日本           | 52.6 | 57.9 | 56.7 |
| 観点  | 社会的事象への関心・意欲・態度 | 61.9 | 65.0 | 63.0 |
|     | 社会的な思考・判断・表現    | 60.0 | 62.5 | 60.5 |
|     | 資料活用技能          | 65.0 | 67.2 | 65.9 |
|     | 社会的事象についての知識・理解 | 69.0 | 71.8 | 70.1 |



## ★指導の工夫と改善

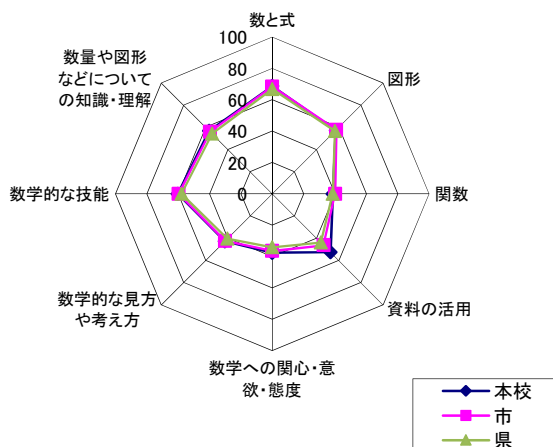
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分         | 本年度の状況   | 今後の指導の重点   |
|---------------|--|--|
| 世界の地域構成       | ○県・市の平均を上回っている。<br>緯度・経度の読み取りや目的に応じた地図の利用については得点率が高かった。デジタル教科書を用いるだけでなく、地図の歴史的な変遷の話や簡単な実験が、生徒の印象に残ったと考察できる。    | ・定着度を上げるために、教材内容の魅力を膨らませるシミュレーション的学習や定期的な単元末テスト、多角的・多面的な視点を与えるこぼれ話等の工夫を続ける。  |
| 世界各地の人々の生活と環境 | ○県の平均を上回り、市の平均と同程度である。<br>●生徒の得点分布が上位層と下位層に別れ気味である。  | ・生徒の反応を高め、定着度を向上させるために、気候と生活、宗教に関わる単元を再構成したり、写真資料から植生や建物の工夫を読み取らせたりした。このように、教材内容を精査し、小単元を再構成して進める手法を用い、今後も随時活用する。  |
| 世界の諸地域        | ●県・市の平均を下回っている。<br>アメリカ合衆国についての問題が非常に好成績であったが、西アジア・中央アジアや世界の産業分布など、複数の資料を同時に読み取って考察する設問に対する得点が低く、全般的にマイナスとなった。 | ・授業構成の中で、一つの資料を読み取って先に進んでしまうことが多かったためかもしれず、反省点である。資料活用能力を高めるために、授業展開になれた1年後半からは、意識的に複数の資料を同時に読んで考察する授業展開を入れていく。  |
| 古代までの日本       | ●県・市の平均を下回っている。<br>藤原摂関政治・武家政権の成立について、因果関係等思考・判断系の設問は県・市に比べて好成績であったが、「渡来人」の用語等、知識理解免の得点がふるわず、全般的にはマイナスとなった。    | ・知識・理解系の定着率を高めるために(特に低得点として)こまめな豆テスト、授業の振り返りの励行、自主学習ノートの活用などを行った。今後もそれらの活動をそれぞれ工夫し続ける。<br>複数の資料読解のあった「奈良時代の農民の生活」のように、アクティブラーニング的な展開の定着率がよかった。今後とも能動的な授業展開を開発する。 |
| 中世の日本         | ●県・市の平均を下回っている。<br>大部分の設問に対しては平均レベルであったが、「日明貿易」の用語、日明貿易の特徴を複数の資料を用いて考察する設問に対して大きく低く、全般的にはマイナスとなった。             | ・定着率の低さは授業が遅れ気味のため、講義形式の授業スタイルが多かったことが原因と考察できる。定着率を安定して高めるために、生徒にとって能動的な授業展開の時間をより多く確保する。  |
|               |  |  |

# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分                | 本年度  |      |      |
|-----|-------------------|------|------|------|
|     |                   | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と式               | 68.7 | 68.4 | 66.8 |
|     | 図形                | 57.3 | 57.8 | 56.5 |
|     | 関数                | 38.5 | 40.1 | 38.5 |
|     | 資料の活用             | 52.6 | 46.3 | 43.8 |
| 観点  | 数学への関心・意欲・態度      | 37.5 | 36.4 | 34.1 |
|     | 数学的な見方や考え方        | 42.7 | 42.5 | 40.5 |
|     | 数学的な技能            | 60.3 | 59.6 | 57.9 |
|     | 数量や図形などについての知識・理解 | 56.9 | 56.0 | 54.3 |



## ★指導の工夫と改善

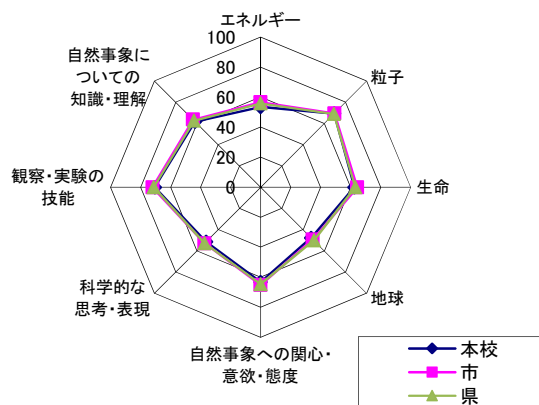
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況  | 今後の指導の重点   |
|-------|---|--|
| 数と式   | ○平均正答率は市平均とほぼ同じである。正負の数・文字式の計算は市平均とほぼ同じかやや高い数字になっている。<br>●分数の四則混合の計算が課題。市・県平均ともに正答率は55%ほどである。比例式の計算の正答率も低い。 | ・中1の正負の数の四則計算の時点でつまづいている生徒も少なくない。自主学習ノート等を活用し、計算の練習を継続的に行い、授業の中で小テスト等を行い達成度が見えるようにしていく。                                  |
| 図形    | ○平均正答率は市平均とほぼ同じである。<br>●垂直二等分線の作図を利用した問題の正答率が他の問題に比べ低い。   | ・空間図形が課題である。特に空間図形に関する知識の部分は使用頻度が少ないこともあり正しく理解していないままになっている現状がある。体積等の計算だけに重きを置かず、定義や性質を正しく理解させる。                         |
| 関数    | ○平均正答率は市平均とほぼ同じである。1元1次方程式や比例式を用いる問題では市・県平均を5ポイント以上上回った。<br>●記述問題の正答率が低い。                                   | ・式にすることはできるが、その活用ができていない。式を作らせるだけでなく、それぞれの文字が何を表しているかを理解させ、いろいろな場面に活用できるような力を育てるようにする。記述も苦手なので丁寧に書く習慣を付けるともに、発表させる機会を作る。 |
| 資料の活用 | ○平均正答率は市平均とほぼ同じである。資料の活用に関する知識を問われる問題では市・県平均を5ポイント以上上回った。<br>●記述問題の正答率が低い。                                  | ・代表値に関する知識を定着させると共に、その値が何を意味しているのか説明したり記述したりする活動を授業の中で行う。  |
|       |   |  |

# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | エネルギー          | 53.5 | 56.6 | 55.8 |
|     | 粒子             | 69.4 | 69.6 | 69.0 |
|     | 生命             | 62.4 | 64.4 | 63.0 |
|     | 地球             | 47.7 | 49.2 | 50.2 |
| 観点  | 自然事象への関心・意欲・態度 | 63.2 | 65.2 | 64.7 |
|     | 科学的な思考・表現      | 51.4 | 52.8 | 52.8 |
|     | 観察・実験の技能       | 70.5 | 72.0 | 71.2 |
|     | 自然事象についての知識・理解 | 61.8 | 63.7 | 62.7 |



## ★指導の工夫と改善

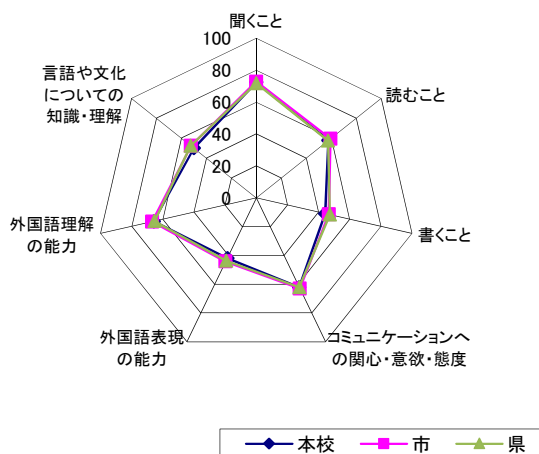
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況   | 今後の指導の重点  |
|-------|--|---|
| エネルギー | ○発生した気体が二酸化炭素であることを調べる実験を選ぶことができている。<br>●おもりがばねを引く力を矢印で表す問題の正答率が低い。何が何に作用する問題なのかを文章から読み解く力が課題になってくる。                   | ・力の種類と、どの場所からどの向きに作用するのかを理解する力が必要になってくる。物体が重力によって動いているのか、物体が物体を動かす力なのか文章から理解できるように文章読解能力を他の単元を通して育てていく。 |
| 粒子    | ○ろ過を正しく行うことができる。実験方法をよく理解し、実験できたと考えられる。<br>●ロウが液体から固体に変化すると、体積が小さくなり、密度が大きくなる問題の正答率が低い。図から体積と密度の変化について考察できなかったと考えられる。  | ・体積と密度の違いが理解できるように、資料だけでなく、実験を通して、視覚的に理解させる。  |
| 生命    | ○裸子植物に分類される植物を答えることができた。<br>●イチゴを分類する問題の正答率が低い。植物のなかま分けの方法から、イチゴの図を見て区別できていなかった。区別に必要なポイントを抑えることが課題になると考える。            | ・植物のなかま分けはできているので、その知識を生かして応用する力を付けるために、見たことがある図だけでなく、知識から考察する力を付けさせるように問題を工夫したり、実験の考察を工夫したりする。         |
| 地球    | ○岩石のスケッチの正しくない書き方を指摘できていた。<br>●化石から、地層が堆積した当時の環境や時代を推測する問題の正答率が低い。化石に含まれている動植物がどのような環境に存在し、どの時代の生物なのか理解できていなかったと考えられる。 | ・理科は日常のいたるところに存在し、その知識を使うこともできることを授業を通して、教えていく。   |
|       | ●普段目にしていない生物がどこに住んでいるのか、話し合いの中や日常生活では理解できているが、理科の問題になると関連付けることができなくなっている。  |   |

# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分                  | 本年度  |      |      |
|-----|---------------------|------|------|------|
|     |                     | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 聞くこと                | 72.5 | 72.8 | 71.8 |
|     | 読むこと                | 57.7 | 59.4 | 57.5 |
|     | 書くこと                | 44.3 | 46.6 | 47.3 |
| 観点  | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 62.1 | 63.0 | 62.2 |
|     | 外国語表現の能力            | 41.8 | 44.2 | 43.6 |
|     | 外国語理解の能力            | 65.9 | 66.8 | 65.4 |
|     | 言語や文化についての知識・理解     | 50.0 | 52.3 | 52.5 |



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況   | 今後の指導の重点   |
|-------|--|--|
| 聞くこと  | <p>○対話を聞いて、適切に応答する問題では、県を上回る正答率である。</p> <p>●英文の要点を聞き取る問題が、県平均を4ポイント下回っている。</p>                       | <p>・授業においてクラスルームイングリッシュを多く使うことで、英語を聞く機会を増やす。</p> <p>・やや長い説明文や対話文を聞いて要点をまとめたり、絵や表をヒントに聞き取りを進めるような練習を増やす。</p>        |
| 読むこと  | <p>○対話文を読んで、質問に答える問題では、県を上回る正答率である。</p> <p>●メールを読んで内容に関する質問に答える問題では、県平均を3ポイント下回っている。</p>             | <p>・やや長い英文を読み、内容に関する質問に答える問題を生徒は苦手意識を持つ者が多い。語彙力を多く身に付けさせ、内容を類推させる力を身に付けさせる。</p>                                    |
| 書くこと  | <p>○一般動詞の過去形の疑問文を作る問題で、県を6ポイント上回る正答率の問題があった。</p> <p>●疑問詞what＋名詞を使った疑問文の作成の正答率が県を16ポイント下回る問題があった。</p> | <p>・正しい英文を身に付けさせること、英語を数多くしゃべらせることについて、両方を一緒にすることは難しいが、内容を精選して扱う必要がある。多く練習をすることが最善と考え、場面や条件に応じた作文練習を多く取り入れていく。</p> |
|       |  |  |

## 宇都宮市立清原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分で計画を立てて勉強している。」「学校の宿題をしている。」「学校の授業の予習をしている。」「学校の復習をしている。」など、家庭学習に関わる(1)から(6)の項目では、肯定的な答え「はい」「どちらかといえば、はい」と回答している生徒の割合が高い。今後も自主学習への取組を指導し、その内容や質の向上を図る。

○「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中に役立つと思う。」「や毎日の生活が充実していると感じている。」と肯定的に答えた生徒の割合が90%以上と高い。社会体験学習の事前学習や各教科で社会との関わりに触れた指導の成果だと考えられる。今後も各教科・領域におけるキャリア教育を実践していく。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」「や「友だちと話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。」という設問では、95%以上の生徒が肯定的に答えていた。学級での雰囲気づくりなど学級担任による学級経営の成果といえる。今後も学級活動や各教科の学習で小グループでの話し合いや、建設的なクラスでの討議、司会進行の役割を果たす生徒の育成など、話し合い活動や対話を通して深く考える態度を育てる。

○「自分には、よいところがあると思う。」「自分の行動や発言に自信をもっている。」という設問では、90%以上の生徒が肯定的に答えていて、自尊感情が高い生徒が多い。今後もひとりひとりの生徒の自尊感情が高まるように、指導・承認・賞賛を繰り返し続けていく。

●「難しい問題にであうと、よりやる気がでる。」という設問では肯定的な回答が50%をやや下回った。難問にチャレンジする意欲を育て、挑戦する気持ちを育てていく。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」という設問では肯定的に答えた生徒が50%をやや下回った。発表に慣れていない面が見られるので、発表の機会や場を設定していく。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組       | 取組の具体的な内容   | 取組に関わる調査結果  |
|--------------|---|---|
| 話し合い活動の充実    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合い活動を生かせる場面、方法、期待できる効果などを全教職員で共通理解し、教科ごとに授業での活用場面を話し合う。</li> <li>○校内研修などで、効果のあった話し合い活動について、全教職員に周知する。</li> </ul>        | <p>「人と話すことは楽しい」「学級活動の時に友達と話し合っってクラスの決まりなどを決めていいると思う」について、市の平均を、それぞれ2.3ポイント、5.3ポイント上回っている。他方、グループでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業の中で目標が示されている」「授業では自分の考えを発表する機会が与えられている」は、それぞれ5.4ポイント、3.1ポイント低い。</p> |
| 「書く」活動の工夫・充実 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○定期テスト等で、書かせる問題を増やし、普段の授業でも書かせる機会を多く取り入れる。</li> <li>○授業の中で分かったことなどや振り返りを、言葉で書かせ、他の人に向けて説明させる。</li> </ul>                   | <p>・「表現」に関わる問題の校内正答率は、国語の「書く力」は市と同等、英語の「外国語表現の能力」で市より2.4ポイント下だった。また、社会・理科での「思考・表現」でもそれぞれ2.5、1.4ポイント下だった。書き出しや文末を与えた問題で経験させるなど、スモールステップでの学習体験を、日常の授業展開で蓄積させる。</p>                            |
| 家庭学習の充実      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自主学習ノートを全学年共通で行い、毎朝提出状況をチェックする。未提出の生徒には担任から声かけをし、継続して学習していけるよう励ます。</li> <li>○自主学習ノートのやり方として見本となるようなものを全校生徒に示す。</li> </ul> | <p>・「授業以外に平日1日どれくらい学習しているか」については、1時間以上学習している生徒が76.9%と、市の平均を4.1%上回った。また、予習・復習の実施率、テストで間違えた問題の再挑戦率もそれぞれ、14.8%、8.0%、7.2%市を上回っている。</p>  |